



集団的自衛権行使

米海兵隊との共同演習で射撃訓練を行う陸上自衛隊員。2月8日、キャンプ・ペンデルトン（米カリフォルニア州、米海兵隊ウェブサイトから）

「武力行使しない」「戦闘地域に行かない」

2つの歯止めはずす

これまで日本は、米国のアフガニスタン報復戦争（01年）、イラク侵略戦争（03年）に自衛隊を派兵しましたが、武力行使、戦闘地域についての2つの歯止めのため、「殺し、殺される」ことにはなりませんでした。

「集団的自衛権が行使できるようになれば、歯止めがなくなってしまう」——志位委員長の繰り返しの追及にも首相は「歯止めを残す」とは言いませんでした。そのうえ「戦闘地域」に行くこともあり得るとの考えを示しました。

国民が慣れた、その先には…

戦闘目的部隊を戦場に

首相は海外の戦争に「武力行使を目的に参加しない」と言いましたが、「武力行使はしない」とは言いませんでした。

「武力行使を目的に参加しない」のは、「自衛隊は実戦経験がないため、攻撃部分に参加し

てもすぐにできない」（安保法制懇・北岡伸一座長代理）から。まずは「後方支援」で風穴をあけ、自衛隊員が海外で戦死することに国民が慣れれば、戦闘活動を目的とした戦闘部隊を戦場に送ることを狙っています。

戦地派兵そして戦争の泥沼に

解釈で9条こわすな

声広がる

一内閣が閣議決定だけで憲法解釈を変更し、憲法9条をなきものにする——立憲主義の否定には、自民党の元幹事長ら、立場を超えて反対の声が大きく広がっています。

加藤紘一元自民党幹事長「集団的自衛権の行使容認をすれば、米国の要請で自衛隊が、地球の裏側まで行くことは十分に想定されます」「集団的自衛権の議論は、やりだすと徴兵制

古賀誠元自民党幹事長「総理の考え方次第で集団的自衛権を認めたり、認めなかったり、ころころ変わったら、

阪田雅裕元内閣法制局長官「海外で武力行使しないことが9条の核心。



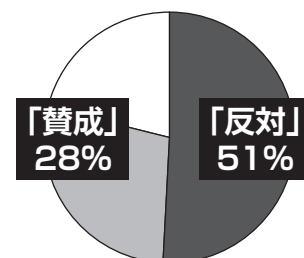
加藤紘一元自民党幹事長のインタビューを掲載する「しんぶん赤旗」日曜版

まで行き着きかねない」（「しんぶん赤旗」日曜版5月18日付）

世界の国々は日本をどう考えるか」（2月16日の民放番組で）

集団的自衛権の行使容認は、9条を削除するのと同じだ」（「東京」）

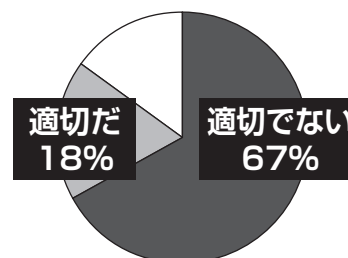
「解釈で改憲」過半数が反対



「日経」5月26日付

憲法改正でなく憲法解釈を変更して集団的自衛権の行使を容認することに

集団的自衛権行使を憲法解釈の変更で認めることについて、各紙の世論調査で反対が過半数になっています。



「朝日」5月26日付

憲法改正によらず、解釈変更によって集団的行使を認める安倍首相の進め方